

ホイールバルンサーの話

A、 回転型のバルンサーは、その特性から測定誤差が発生します。

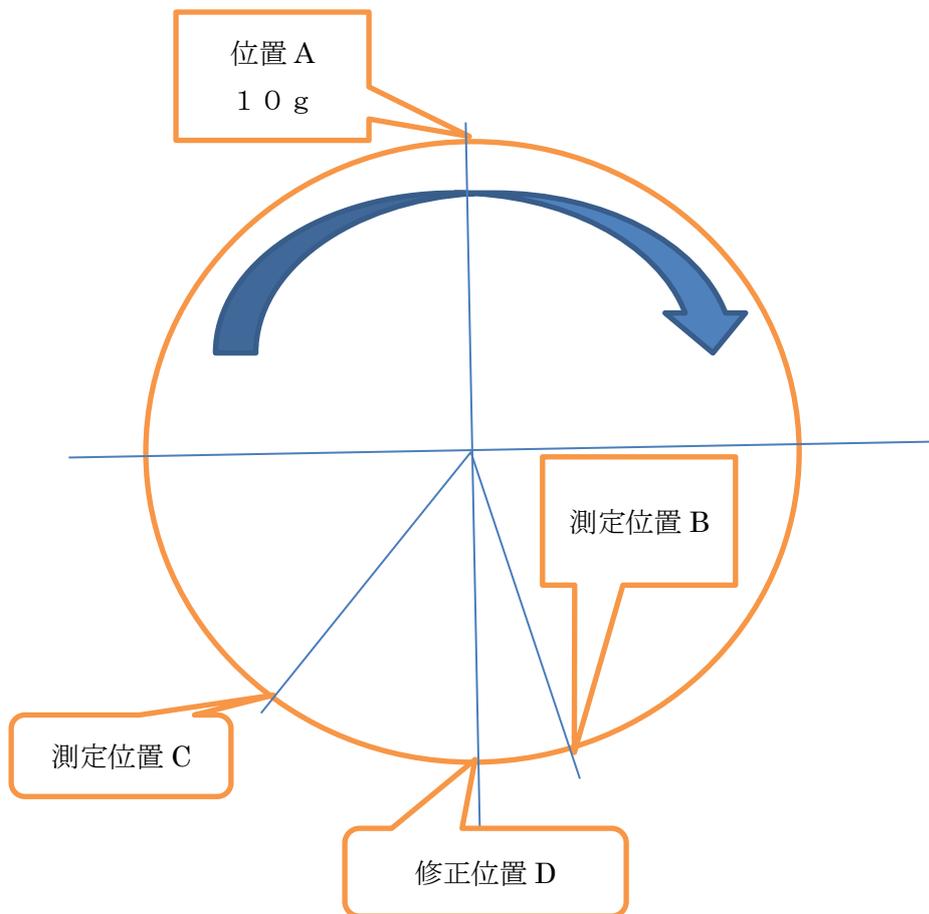


図 (1)

B、 例、位置 A に編重量が 10 g と想定します。

(修正位置 D に 10 g を付加して終了がベターです)

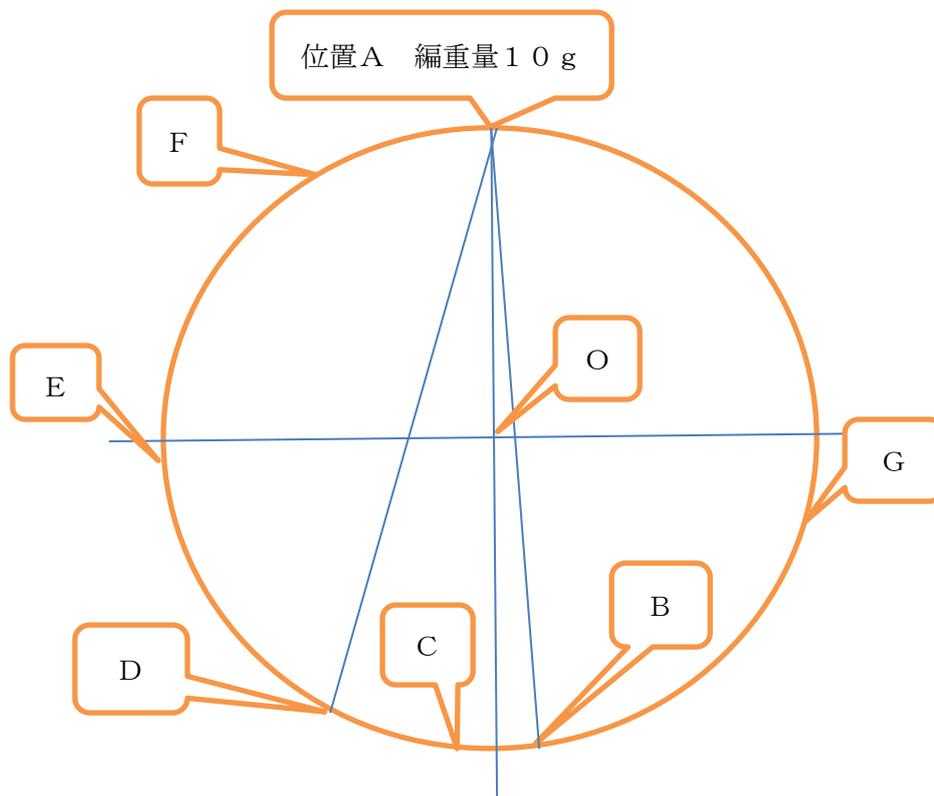
測定位置は B となります。(補正することも可能ですが異なるタイヤの補正はより複雑になります。)

測定位置 B に**少しずつ増量**して 9 g となったとします。測定位置が C へと移ります。

測定位置 C へ**少しずつ増量**していき 役 1.3 g ぐらいでバランスして終了です。

(測定位置の変化は段階的に変化しますが、“**少しずつ増量**”とリンクします)

C、 例（2）検証と微調整



図（2）

- 1、“B”に 5 g では“C”に5.02 gです。
 - 2、“B”に 10 g では“E”に0.5 gです。
 - 3、“B”に 12 g では“F”に2.1 gです。
 - 4、“B”に 9 g では“D”に1.3 gです。
- 合計の重量からも4番が良いようですね。
∠BODは30度～50度ぐらいが好ましい角度です。

測定位置“B”に少しずつおもりを付け、測定を繰り返す。

測定位置“B”が適切に回転方向にずれたら D に少しずつ重りを付け測定を繰り返す。（“D”が大ききずれた場合は“B”を軽くする）

D、微調整

∠BADを中心と考えて

測定位置が “G” 方向では“D”を軽くします。

測定位置が “E” 方向では“B”を軽くします。

測定位置が“BとD”の間に来るようにおもりの増減を繰り返し整える。